

# 『 ぱんだより 』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。  
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

第80号(2011年6月14日)最優先課題となる環境問題



前号の「ぱんだより」では電力不足という観点から、自然エネルギーの重要性について紹介しました。今号では、中国環境問題の深刻さという切り口から、中国の最新動向を紹介したいと思います。

## 最優先課題となる環境問題

中国では、砂漠化の問題をはじめ、大気汚染、水質汚濁、酸性雨、都市ごみなど、工業化に伴い環境問題が全国範囲で広がっています。今世紀に入り、中国政府は環境を犠牲にしない発展を目指し、様々な対策を実施してきました。工場の廃棄物、廃水などの徹底管理、すべてのコンビニやスーパーなどのビニール袋の有料化等、工業から国民生活まであらゆる側面から環境問題を改善しようとしています。

これらの対策によって、目に見える汚染が一部改善されましたが、工業化の進展や国民生活水準の向上により、二酸化炭素の排出量は未だ年々増えており、目に見えない汚染問題は依然として深刻な状況です。下記の表に、2011年1月から5月までに報道された主な環境問題をまとめていますが、中国全土において、様々な環境問題が起きています。

環境問題を深刻だと感じている一部の富裕層には海外移住を考え始めている人もいます。某中国大手商業銀行が2011年年始に行った調査によると、個人資産が1,000万元(約1億3,000万円)を超える富裕層の約6割が移民を考えているか、あるいはすでに実行しているようです。その最も大きな要因は、中国の環境問題にあるとのことです。

### 2011年1月～5月末、中国主な環境問題の報道

問題	エリア	内容
水問題	江西省、湖南省	中国の2大淡水湖が干ばつの影響で水量が減少し、湖面積が今年の3分の1程度になる。
温暖化問題	甘肅省	甘肅省の主要水源地の氷河が大幅に減少し、200年以内に氷河が消滅する恐れもある。
砂嵐	北部	新疆ウイグルから北京まで広い範囲で砂塵に見舞われた。一部地域では砂嵐となっている。
水問題	内モンゴル自治区	石油や鉱物資源の採掘などにより、草原環境を悪化させている。地下水も汚染され、飲めなくなった。

出所: 中国気象局および報道資料などによりスパークス・アセット・マネジメント作成



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



# 『 ぱんだより 』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



## クリーンエネルギー市場の拡大

前記の環境問題を解決するには、いち早く、クリーンエネルギー、省エネの推進を早めなければいけません。2011年～2015年の第12次五か年計画の中、中国政府が「拘束性のある目標」を加えました(下記の表をご参照)。また、2010年9月中国政府が発表した「7つの新戦略」の中では、クリーンエネルギー自動車、省エネ素材、新クリーンエネルギー等、環境エネルギー分野を今後中国経済成長の新たなエンジンとするとしています。この「拘束性のある目標」を達成するためには、今後中国政府のこれらの分野への投資額はかなりの規模になると考えられ、これに伴い中国のクリーンエネルギー市場は急速に拡大すると思われます。

## インフラからのスタート

下記の表の中で、2015年の単位GDPあたりのエネルギー使用量とCO<sub>2</sub>排出量の目標値を比較してみると、2010年と比べても、それぞれ16%減と17%減となっており大差はありません。これは中国のエネルギー構造が今後の5年間で大きく変化しないことを意味しています。前号の「ぱんだより」で紹介したように、中国の発電は火力への依存が大きい構造となっています。2010年、中国はすでに世界最大の太陽光パネル製造国となり、風力発電量も世界のトップクラスとなっています。それにもかかわらず、2015年まで火力偏重の構造に大きな変化がないことに対して、違和感を感じてしまいます。その最大の原因は、中国の電力インフラが、まだ発展途上国のレベルにあるからだと思います。

太陽光発電を例として見ると、日照時間などの要因で内陸の砂漠地帯に、太陽光パネルを設置することが多いのですが、今まで欧州に輸出していた太陽光パネルを中国国内に設置することは決して難しいことではありません。しかし、発電された電力を沿岸部に送電する送電網がまだ不十分であり、また蓄電技術も発達していないため、中国の自然エネルギーの本格的な普及は2015年以降になると思われます。こうしたことから、今後5年間のクリーンエネルギー市場の重点投資分野は、電力インフラになると予想しています。

### 中国エネルギー関連の主な目標値

	2010年	2015年	2020年
単位GDPあたりのエネルギー使用量	05年比20%減*	10年比16%減 (05年比33%減)	NA
単位GDPあたりのCO <sub>2</sub> 排出量	05年比20%減*	10年比17%減 (05年比34%減)	05年比40～45%減

出所: 中国政府発表および報道資料などによりスパークス・アセット・マネジメント作成

\*当目標値に関しては、国有企業に限定するもの。

(編集後記) 中国では「ガンの村」と呼ばれる村があります。1990年から2004年までの15年間の中で、この村で亡くなられた方の内で、約54%がガンによるものと報道されています。その原因は工場の廃水にあると言われています。早急な環境対策が求められます。

(告られタイ)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。